

「エコプロ 2017」に出展しました

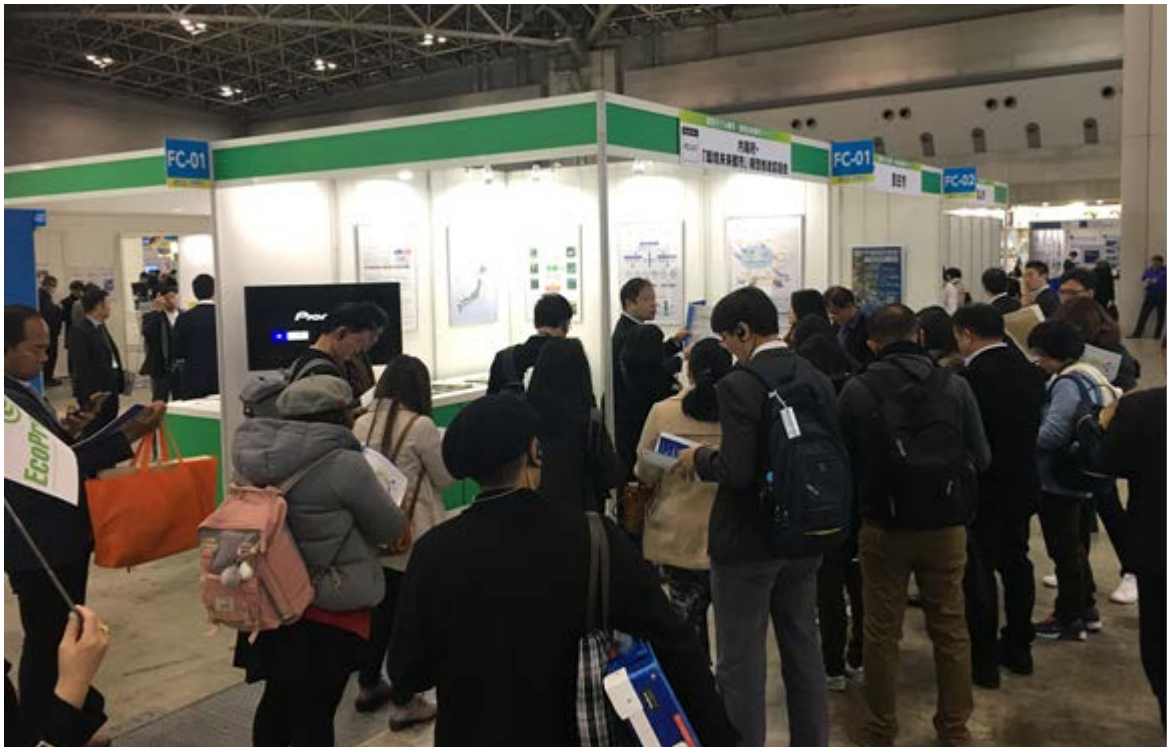
12月7日(木)～9日(土)の3日間の日程で、東京ビックサイトで開催された「エコプロ 2017」に出展しました

内閣府と「環境未来都市」構想推進協議会は、アジアを代表し国内最大級の環境・エネルギーの総合展示会である「エコプロ 2017」に出展しました。

また、内閣府/「環境未来都市」構想推進協議会とともに、4市1町1村の自治体が「環境モデル都市・環境未来都市ゾーン」に出展し、低炭素社会の実現に向けた取組や超高齢化対応の取組等を推進する「環境未来都市」構想の普及に向けて、各都市の先進的な取組や、幅広い活動に関して積極的に紹介しました。

なお、イベント全体では、12月7日(木)～9日(土)の3日間で、約16万人が来場しました。

内閣府/「環境未来都市」構想推進協議会の展示ブース



内閣府/「環境未来都市」構想推進協議会の展示ブース 出展内容

- ・パネルやパンフレットによる「環境未来都市」構想と取組の紹介
- ・環境未来都市・環境モデル都市の取組紹介動画の放映

ステージイベントにて、環境未来都市・環境モデル都市の皆様が登壇しました

12月7日(木)のステージイベントにおいて、出展した各都市の皆様が登壇しました。

第1部「自治体におけるSDGsの導入について～環境未来都市の実績から～」

地域資源を活用し、環境・社会・経済の3つの価値を創造しながら、自律的に発展する多様な都市・地域モデルの実現を目指し、取組を進めてきた「環境未来都市」構想の実績から、自治体におけるSDGs※の導入について、内閣府の施策を紹介するとともに、パネルディスカッション形式での議論を行いました。

※Sustainable Development Goals の略。2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標。全ての関係者（先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等）の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むもの。

コーディネーターは、法政大学デザイン工学部准教授の川久保俊様に務めていただきました。

実際に環境未来都市として取組を進められている下川町、富山市、横浜市からは、3名のパネリストにご登壇いただき、お話をいただきました。

- ・コーディネーター：法政大学デザイン工学部准教授 川久保俊氏
- ・施策紹介：内閣府地方創生推進事務局参事官 遠藤健太郎氏
- ・パネリスト：下川町環境未来都市推進課地方創生戦略室長 蓑島豪氏
富山市環境部環境政策課課長代理 東福光晴氏
横浜市温暖化対策統括本部環境未来都市推進課 担当課長 内山幹子氏

ステージ会場の様子（第1部）



第2部「地域資源を活用した低炭素社会の実現に向けて」

地域資源を最大限に活用し、分野横断的かつ主体間の垣根を越えた統合的なアプローチにより、低炭素社会と持続可能な発展の両立に向けて高い目標を掲げて取組を実践している環境モデル都市の担当者の皆様から、自らの言葉で最新の取組をお伝えするとともに、低炭素社会の実現と地域活性化についてパネルディスカッション形式での議論を行いました。

コーディネーターは、第1部に引き続き、法政大学デザイン工学部准教授の川久保俊様に務めていただきました。

実際に環境モデル都市として取組を進められている豊田市、尼崎市、西粟倉村からは、3名のパネリストにご登壇いただき、お話をいただきました。

- ・コーディネーター：法政大学デザイン工学部准教授 川久保俊氏
- ・パネリスト：豊田市企画政策部未来都市推進課担当長 古山武嗣氏
尼崎市経済環境局環境部環境創造課係長 上平裕子氏
西粟倉村産業観光課地域おこし協力隊小水力発電事業担当
一般社団法人兵庫再生可能エネルギー推進協議会代表理事
一般社団法人淡路島オリーブ協会理事 那須俊男氏

ステージ会場の様子（第2部）

